

AMCoR

Asahikawa Medical College Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

旭川医科大学研究フォーラム (2004.12) 5巻1号:79.

【学会の動向】第39回日本循環器管理研究協議会総会「日本循環器病予防学会」第69回生活習慣病予防講演会を開催して

菊池健次郎

学界の動向

第39回日本循環器管理研究協議会総会「日本循環器病予防学会」 第69回生活習慣病予防講演会を開催して

菊 池 健次郎*

この度第39回日本循環器病予防学会・日本循環器管理研究協議会総会および第69回生活習慣病予防講演会を平成16年6月10日～12日の3日間旭川グランドホテルを会場として開催致しました。本総会の北海道での開催は、第20回（昭和60年、札幌市）北海道大学循環器内科 安田寿一教授、第28回（平成5年、札幌市）札幌医科大学第二内科 飯村攻教授以来11年ぶり3回目であり、旭川市での開催は初めてでありました。おかげさまで200名を超える皆様にご参加頂き、盛況のうちに終えることができました。

旭川医大医師会、旭川市医師会をはじめ地元の皆様には大変お世話になり誠にありがとうございました。

我が国における循環器病の質、その背景となる危険因子の関わりは、この約30年間で大きく変わりつつあります。日本では最も多い循環器病で、かつ、“高齢者の寝た切り”の原因の第一位を占める脳卒中においても、脳出血が減り、脳梗塞、とくに動脈硬化に起因するアテローム血栓性脳梗塞の増加が指摘されています。これには高齢化とともに食生活を含む生活様式の欧米化の進展に基づく肥満、インスリン抵抗性の増大、糖尿病、高血圧、高脂血症を含む“メタボリックシンドローム”の増加が大きく寄与していると考えられます。国民栄養調査の成績では、日本国民の平成2年以後の摂取総エネルギーは、むしろ漸減しているのに対し、それに占める脂質の割合が25%を超え、脂質摂取過多状態が持続しています。とくに、1～6歳、7～19歳の小児、学童～思春期の若年者の脂質摂取比率が最も高く28～30%に達し、これが運動不足と相俟って小児期からの肥満の増加、生活習慣病予備状態の増大、進展に大きく関わっていると推察されます。この

ような状況を踏まえ、循環器病予防のための生活習慣の修正は成人はもとより、幼小児期からの介入が不可欠と考えられます。そこで今回は、本総会の主題を「二十一世紀における循環器病予防—幼小児期からを含めた生活習慣の修正—」と致しました。会長講演では、私が本学保健管理センター所長を務めさせて頂きました時からのデータを「医学部学生における生活習慣病危険因子の推移」として解析（現保健管理センター川村助教授が中心となり藤尾保健師、本学看護学科教官の協力による）し、これらをもとに思春期の若者の生活習慣病危険因子の推移についてお話させて頂きました。そして、本総会の主題にのっとり、シンポジウムⅠのテーマは「循環器病の早期予防：幼小児期からの生活習慣の修正を考える」とし、座長を本学会の理事でいらっしゃる広島放射線影響研究所疫学部長の児玉先生、あいち小児保健医療総合センターの長嶋先生をお願い致しました。シンポジストに地元、旭川医大小児科 伊藤講師（現助教授）に加え、新潟、名古屋、鹿児島、沖縄などの小児科の先生方に参画頂き、小児科医、疫学研究者、内科医相互のあいだで大変熱のこもった討論が交わされました。

* 旭川医科大学 内科学第一講座

シンポジウム I

「循環器病の早期予防：幼小児期からの生活習慣の修正を考える」

座長

財団法人放射線影響研究所疫学部 児玉 和紀
あいち小児保健医療総合センター 長嶋 正實

- 1) 基調講演「小児期の生活習慣病と循環器予防」
あいち小児保健医療総合センター 長嶋 正實
- 2) 幼小児期の原発性及び二次性高脂血症
琉球大学医学部病態解析医科学育成医学分野
太田 孝男
- 3) 幼児期からの肥満予防対策
旭川医科大学小児科 伊藤 善也
- 4) 小学生の肥満の現状と介入成績
鹿児島大学大学院医歯学総合研究科
小児発達機能病態学分野 吉永 正夫
- 5) 小児高血圧の現状と血圧検診の意義
新潟大学大学院医歯学総合研究科小児科学分野
内山 聖

これを契機に小児科領域の方々の本学会への参加、会員としての増加とともに本邦における循環器病予防が幼小児期から推進される契機になることを念願しております。

シンポジウム II は「循環器病と酸化ストレス」とし、座長を東大医学部腎臓内分泌内科 藤田敏郎教授と本学第一内科長谷部助教授にお願いし、生活習慣病であります 1) 高血圧、2) 動脈硬化、3) 虚血性心疾患、4) 脳卒中（本学第一内科 相澤学内講師）の成因・病態に関わる酸化ストレスの重要性、これを予防するための抗酸化物質とその臨床的意義、エビデンスについて大変有意義な討論を頂きました。

シンポジウム II 「循環器病と酸化ストレス」

座長

東京大学大学院医学系研究科腎臓・内分泌内科 藤田 敏郎
旭川医科大学第一内科 長谷部直幸

- 1) 高血圧と酸化ストレス
東京大学保健管理センター 安東 克之
- 2) 動脈硬化と酸化ストレス

神戸大学大学院医学系研究科循環呼吸器病態学分野 川嶋成乃亮

- 3) 虚血性心疾患と酸化ストレス
九州大学大学院医学研究院循環器内科 筒井 裕之
- 4) 脳卒中と酸化ストレス
旭川医科大学第一内科 相澤 仁志
- 5) 循環器病予防と抗酸化物質
茨城キリスト教大学生生活科学部食物健康科学科
板倉 弘重

シンポジウム III では、座長を本学会の理事長でいらっしゃる上田一雄先生と本学会理事で次期会長の横浜市大 枳久保教授にお願いし、「糖尿病における循環器病予防」をテーマに、我が国では最近30年間で急増する糖尿病および糖尿病性血管合併症（細小血管障害：腎症・網膜症・神経障害、大血管障害：脳血管障害・冠動脈疾患・腎動脈狭窄・大動脈瘤・閉塞性末梢動脈疾患など）の予防について、疫学、内科：血圧管理、虚血性心疾患の予防、糖尿病性腎症の予防（本学第二内科 羽田教授）外科医：下肢閉塞性動脈硬化症（本学第一外科 稲葉雅史助教授）の立場から、それぞれ最新のエビデンスにもとづいた貴重なご発表と活発な討論を頂きました。

シンポジウム III 「糖尿病における循環器病予防」

座長

日本循環器管理研究協議会理事長 上田 一雄
横浜市立大学大学院医学研究科
情報システム予防医学（公衆衛生学）枳久保 修

- 1) 糖尿病性血管障害の現況
—久山町研究の成績から—
日本循環器管理研究協議会理事長 上田 一雄
- 2) 血圧管理の重要性
札幌医科大学第二内科 島本 和明
- 3) 虚血性心疾患の予防
日本大学医学部総合健診センター 高橋 敦彦
- 4) 糖尿病性腎症の予防
旭川医科大学第二内科 羽田 勝計
- 5) 糖尿病合併下肢閉塞性動脈硬化症に対する血行再建と術後病変進展制御
旭川医科大学第一外科 稲葉 雅史

また、特別講演を地元・美瑛・富良野のラベンダーの育ての親でいらっしゃるファーム富田の富田忠雄会長にお願いし、「ラベンダーと共に生きて」と題して御講演頂きました。大変控え目なお話しぶりでありながら感動的な講演の内容に、涙して聞いておられる先生方も多数見受けられ、私を含め参加者全員が大きな感銘を受けました。

一般演題は、「体格・肥満」、「動脈硬化・循環調節」、「栄養・減塩」、「生活習慣・指導」の4つのセッションに分かれました。本学から4題（保健管理センター1題、健康科学講座1題、第一内科2題）の演題発表があり、「体格・肥満」の座長のお一人に本学保健管理センター川村助教授、「生活習慣・指導」の座長のお一人に本学健康科学 吉田教授をお願いし、医師のみならず、保健師、栄養士などのコ・メディカルスタッフの方々からの発表がなされ、活発な討論が行われました。加えて、6月10日pm6:30からイブニングセミナー「生活習慣病と肥満—漢方薬による最近の肥満治療—」が札幌医科大学第二内科 島本和明教授座長のもと演者に京都市立病院内科代謝部 吉田俊秀先生をお迎えし、生活習慣病の成因としての肥満、メタボリックシンドロームの重要性と肥満治療の実際面でのノウハウ、漢方薬による治療効果のエビデンスにつき、ウィットに富み、かつ、大変、精力的で説得力のあるお話しを頂きました。翌6月11日のお昼時に、ランチョンセミナー「J-CAD study 中間報告と心血管系イベント予防」が和歌山県立医科大学循環器内科 西尾一郎教授の座長、演者 東京大学大学院医学系研究科クリニカルバイオインフォマティクス研究ユニット 山崎力教授のもとに、我が国における15,000例を超える冠動脈疾患患者の医師主導、多施設共同観察研究（研究責任者：東京大学医学部循環器内科 永井良三教授）の中間報告がなされました。心血管系イベント予防における問題点が具体的に提起され、日本の循環器病予防に大きなインパクトを与えるもので、この企画も有意義であったと考えています。

同じ6月11日pm6:00からはサテライトセミナーを開催し、私が座長をつとめ、「生活習慣病の予防と治療—抗酸化物質を中心として」の演題で茨城キリスト教大学 板倉弘重教授に特別講演を頂きました。本学会員に加え、地元の医師会、看護協会、栄養士会などの皆様のご出席を頂き、身近な抗酸化物質・食品による

生活習慣病の予防、治療における意義について、熱心な討論が交わされました。

最後に6月12日に第69回生活習慣病予防講演会が別紙のように、本学会の母体であります日本循環管理研究協議会と、日本心臓財団および日本学会議予防医学研究連絡委員会の主催、厚生労働省、日本医師会、北海道医師会、旭川市医師会、日本栄養士会、日本看護協会の後援のもとで開催されました。当日は、100名を超える市民の皆様にお集まりいただき「肥満の賢い解消法」と題しまして、4人の先生方に食事・運動・ダイエット食品などの点から、無理のないダイエット、そして成功するダイエットの秘訣についてお話いただきました。多くの参加者から、明日から役に立つお話の数々で、大変有意義だったと感謝の言葉をいただきました。企画としても大成功であったと思っております。

本学会および講演会が、旭川地区の循環器病予防の上で、些かなりとも貢献できましたならば望外の喜びでございます。最後になりますが、本学会・講演会の開催にあたり旭川医科大学医師会、旭川市医師会の先生方、地元の保健所の皆さん、看護協会、栄養士会など多方面の方々に多大な御協力を頂きました。心よりお礼申し上げますとともに、旭川が“幼小児期からの生活習慣の修正”によるメタボリック・シンドローム、ひいては循環器病予防の発進、推進拠点となるための御支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成16年12月吉日

第69回 生活習慣病予防講演会

主題：肥満の賢い解消法

日時：平成16年6月12日（土）13:30~16:30

主催：社団法人 日本循環器管理研究協議会

財団法人 日本心臓財団

日本学術会議予防医学研究連絡委員会

後援：（予定）厚生労働省、日本医師会、北海道医師会、

旭川市医師会、日本栄養士会、日本看護協会

13:30	開会挨拶	日本循環器病予防学会会長	菊池健次郎
	挨拶	日本循環器管理研究協議会理事長	上田 一雄
		日本心臓財団副会長	杉本 恒明
	祝辞		厚生労働省 日本医師会
13:40	後援1. 食事で賢くダイエット		
	座長	滋賀医科大学福祉保健医学	上島 弘嗣
	演者	国立循環器病センター循環器病予防健診部	岡山 明
	後援2. 運動で賢くダイエット		
	座長	名古屋大学大学院医学系研究科公衆衛生学	豊嶋 英明
	演者	産業医科大学産業生態科学研究所健康開発科学	池田 正春
	後援3. ダイエット食品の賢い使い方		
	座長	医療法人社団俊和会寺田病院	澤井 廣量
	演者	旭川大学女子短期大学部生活学科	豊島 琴恵
	後援4. 成功する賢いダイエット		
	座長	駿河台日本大学病院循環器科・日本大学医学部総合健診センター	久代登志男
	演者	京都市立病院内科代謝部	吉田 俊秀